

ひるば

優良公民館紹介

第63回優良公民館
(文部科学大臣表彰)

大分市明治明野公民館

つどろう・まなぶ・つなぐ

21世紀の館



明治明野地区は、縄文文化の歴史遺産が残る緑豊かな明治台地と新産都の発展とともに開発が進んだ明野地域で、大分市のほぼ中央部に位置している。周囲には開発が進む中でも豊かな自然や歴史的に貴重な史跡が今なお多く残り、大分高専をはじめ高等教育機関や様々な施設がある。

明治明野公民館は、昭和六十三年に設置されて以来、生涯学習の拠点として地域住民をはじめ各種団体に幅広く活用されている。明治明野地域の人口は、約四万八千人で五つの小学校と二

つの中学校がある。交通アクセスがよく、また、多様な教室・講座の開催により他地区からの利用者も多く、年間総利用者数は、十四万人を超えている。今年度、地域住民への多様な学習機会の提供等が評価され、「第六十三回優良公民館」として文部科学大臣表彰をいただいたが、この受賞は開館以来、校区公民館や地域の自治会をはじめ、これまで関わってきた全ての人々の努力の賜物であると感謝している。特に、平成八年度から始まった地域住民による、ふれあいマーケットは、「ふれあいフェスタ イン 明治明野」として定着し、今では「環境フォーラム」と併せて、毎回、千五百人を超える地域住民の交流や学びの場として、地域の活性化にも大きく貢献してい

る。また、本館の特色として、図書室の貸出冊数が年間六万冊に達するなど地域社会の文化向上、生活改善に向け活発に利用されている点などがあげられる。

今回の受賞を契機に、生涯学習・社会教育の場として、不易と流行を踏まえながら講座や教室の開設はもとより、事業内容の成果等について点検・評価を行いながら工夫と改善を加え、二十一世紀の「人づくり」「まちづくり」の館をめざし、地域に根ざし開かれた公民館運営に取り組みでいきたい。



九州地区公民館研究大会

沖縄大会に参加して

平成二十二年十一月十一日・十二日に沖縄で開催された「第六十一回九州地区公民館研究大会」沖縄大会に参加した。

一日目は、沖縄県立武道館アリーナ棟で開かれた第八分科会「自治公民館活動（農・山・漁村型）」に参加した。この分科会では、豊かな地域づくりを担う自治公民館活動の在り方を討議のテーマに掲げ、①自治意識・連帯感を高めるための組織・運営の在り方について ②住民の生きがいづくりを促進するための講座とその運営の在り方についての2つを柱に討議が行われた。事例発表は、佐賀県唐津市蔵木公民館、沖縄県読谷村高志保区公民館が行った。両公民館から日頃の活動内容・評価と成果・今後の課題等が発表された。

これらの発表をとおして、少子高齢化の今、地域との連携を密にし、地域の特性に定める公民館の役割とその重要性を創造し、「いつでも、どこでも、だれでも、何でも」学習することができ、「人が育ち輝くまちづくり」を目指す公民館活動を再認識するよい機会となった。

梓菜市山香中央公民館
館長 都甲 靖



第二日目は大分市坂ノ市公民館の須藤里美さんがシンポジストとして登壇した「新時代の公民館運営（シンポジウム）」に参加した。

二日目の全体会（講演会）では、俳優の藤木直人さんが「沖縄の社会はコミュニティが厳然としてある。絆と呼ばば聞こえはいいが、悪く言えば、強烈なしがらみ社会。三世代なんてあたり前。若い世代が上の世代から大切なことを受け継ぐことで、子どもはうまく育っている。」といった内容を「沖縄ならではの」エピソードを交えて楽しく話してくれた。私がつとも印象に残ったのは、分科会会場だった首里公民館での温かい雰囲気である。外での食事場所を尋ねた私に「〜が美味しいですよ。」と丁寧に教えてくれた公民館職員の方、サーターアンダギーやさんびん茶（ジャスミン茶）で参加者を温かく迎えてくれた地元サークルの方々。大会テーマ「結び（絆）の心で 地域づくりを担う 公民館活動」を実感し、素直に「もう一度来たい」と思った。

大分市市民協働推進課
梶原 隆浩

第61回 大分県公民館研究大会について

平成22年10月26日(火)
於:豊後大野市(エイトピアおおの他)



分科会報告

第1分科会「公民館の管理・運営」

テーマ「これからの公民館に求められる望ましい管理・運営のあり方」

(主な意見)

- ・合併後一定期間が経過し、住民が公民館の必要性を認識し始めている。
- ・公民館職員と住民の人間関係が重要である。
- ・公民館にとって重要なものは施設ではなく、活動である。
- ・行政が主体か、地域住民が主体か、どちらの視点で活動していくのか、住民主体で事業をやっている公民館は活力がある。
- ・地域住民の意見をどのようにして汲み取っていくのか工夫していく必要がある。

第2分科会「教育の協働」

テーマ「学校、家庭、地域社会による教育の協働を推進するための公民館活動のあり方」

(主な意見)

- ・家庭教育もしっかりしなければ子どもたちの学業向上に結びつかない。そのためにもさらなる家庭教育支援が必要ではないか。
- ・「放課後子ども教室」は単なる遊びの場ではなく、教育の場である。
- ・「学びの教室」等における地域の人々からの学びは、子どもたちにやる気を出させることや学習の習慣化、学

これからの公民館に

必要なこと

「公民館におけるリスクマネジメント」

リスクマネジメントとは、さまざまな危険を最少の費用や労力で最小限に抑えようとする管理手法のことで、「危機管理」とも訳されます。地域住民が集う場である公民館においては管理・運営において適切なリスクマネジメントが常に求められます。

公民館職員が今すぐにも取り組むべきリスクマネジメントは、事故が発生したときに慌てないために、公民館のどこに何があるのかを熟知しておくことです。

また、リスクは思わぬところに潜んでいます。わずかな床の段差でもけがにつながる可能性があります。利用者の動線には特に注意すべきですし、修繕すべき箇所はないか、扉の建て付けはしっかりしているか、釘が出ているところはないか等、細かいところまで常時チェックすることが必要です。

さて、公民館におけるリスクとは具体的にどのようなことでしょうか。まず、利用者の生命・身体の安全、健康にかかわるような事故があげられます。例えば、食中毒やガス湯沸かし器の不完全燃焼等です。水質検査や消防法に基づく検査結果の指摘事項の放置といった設置・管理の瑕疵も絶対に

放置してはいけません。

この他には、不祥事はもちろんのこと、施設利用を巡ってのトラブルも未然に防がなければなりません。これらのことは対応を誤れば訴訟に至るなど公民館の存続につながる恐れがあります。

また、このようなリスクが発生する要因には、次の3つが考えられます。まず、「初期対応の誤り」です。これを防ぐには、自分一人で事態を收拾しようとせず、トップの耳にすぐに一報を入れる、都合の悪いことでも客観的な事実を報告することです。

次に「危機管理意識の欠如」です。判断基準を前例踏襲と慣習に置いてしまふことが危機や危険を招きます。そして、「職員間の不協和音」も考えられます。職場内に不平不満は渦巻いていないか、特に館長は気を配る必要があるでしょう。

これらのリスクや要因は、公民館に限らずどの施設、組織にも当てはまることといえます。常に利用者がいることを念頭に置き、施設の管理・運営を行ってほしいと思います。

大分県教育庁社会教育課
社会教育主事 馬場 尚登

ぶことへの関心等に効果があるのではないか。地域は公民館を拠り所としており、公民館は様々な地域に則した地域づくりを行ってほしい。

マにとり入れたり学習内容を「かきくけこ」(堅い、きつい、苦しい、権威、こわい)から「あいいうえお」(明るい、いきいき、うれしい、笑顔、おもしろい)ものにするような工夫も必要。

第3分科会「人権・同和教育の推進」

テーマ「人権教育の推進と同和教育の解決をめざす公民館活動のあり方」

(主な意見)

- ・県や市町村の地域団体や教育機関等の、公民館を支援できる組織との連携・拡充が必要。
- ・担当者の資質の向上や情報収集に向けた努力が必要。
- ・社会福祉協議会や福祉施設と公民館の連携も必要になってくる。
- ・教室等の参加者を増やすために、ワークショップや最近の話題をテ

第4分科会「自治公民館活動」

テーマ「活力のある地域づくりのための公民館活動のあり方」

(主な意見)

- ・安全で安心なふるさと、まちづくりには、防災・防犯・医療(健康)、青少年の健全育成の充実が必要。
- ・地域間や世代間交流の取組には事業の継続と情報の提供と共有が大切。
- ・防災の取組では、「自助」、「共助」が大切。
- ・地区公民館と自治公民館の活性化に向けた取組にはお互いの連携が必要。



全体会

「地域づくりと公民館」

講演 人間牧場主・年輪塾塾長
若松 進一氏 (愛媛県伊予市)

「観光カリスマ」でもある若松氏は、愛媛県伊予郡双海町(現伊予市)の公民館職員を経て、教育長を最後に退職、現在は、「人間牧場」を開設し人材育成に取り組んでいる。講演では、若松氏自身が中心になって取り組んだ双海町「夕日のまちづくり」、「ホテルによるまちづくり」の事例紹介を踏まえて、公民館はいつの時代も地域づくりの拠点であり、それを行うのは人であることを銘じて実践を積み重ねれば、公民館はますます輝きを増し、社会教育はきっとよくなるという示唆をいただいた。